

## 這い上がれ

校長 武井 正明

野球部が、星稜に完敗を喫してから数日が経った。

私でさえ、悔しさと疲れと、様々な思いが入り混じっているのだから、彼らはいったいどんな心境でグラウンドに立っているかが気になって、放課後の吉田球場へ行ってみた。

心配は杞憂だった。

なにか吹っ切れたように動きが良く、声は寧ろ以前よりも大きく、潑刺としている。1年生の動きもいい。これは久保出・大山コンビが、また何か魔法をかけたかな？

これからはいよいよ暑さとの体力勝負。投手陣が気になる。3年の球を捕ってみた。

力のある球が来ている。1年生もいい回転の球を投げている。夏からの成長も楽しみだ。

9月以降は、きっとチームの大黒柱の一角となる彼に、調子を訊いてみた。

「あまり良くないっす」…そう。彼は自分のことがよくわかっている。だから大言壮語はしない。ただ…調子の悪い時に「調子が悪い」と言って、いい事はひとつもない。言霊というのはあると思う。だからこそ常にプラスの言葉を発して、自分を鼓舞してプラスの方向にもって行ってほしい。君のポテンシャルは魅力十分なのだから。

19日から県大会。もう一皮むけた吉中ナインが暴れまくる姿が、今から楽しみだ。

練習どうかなと、放課後の集会室を覗くと、そこには不安気な表情の吹奏楽部1年生達がいた。別室で20日に迫ったコンクールのオーディションをしていた。1年生14人中5人しか合格しない狭き門だ。昨日、結果が本人に通知されたと聞く。

君たちは、早くも人生の貴重な経験をしているね。

現実と向き合うというのは、時に非常に酷で辛いことだ。私はこういう選抜の場面で、これまでの人生で7回落ちている。その気持ちは、受かったことしかない人間には、到底わからない。世の中甘くないし、平等でもない。努力してもダメな時はダメなのである。

しかし、辛抱強く努力していると、ふとした瞬間に、運が転がり込んでくる時がある。

それはなぜか？

あなたの努力を見てくれている人が、必ずいるからです。そういう人は、あなたにとって「恩人」と呼ぶべき人です。私は人生の分岐点で、恩人に恵まれました。

その人が、あなたをきっといい方向に導いてくれます。それは才能でも環境でもありません。あなた自身の、日々の心の姿勢が、呼び寄せるものだと私は今、確信しています。

だから、絶対くじけないことだよ。苦しい時こそ、笑顔で頑張ってみなさい。

悔しかったらここから這い上がってみろ。必死にもがいていると暗闇の手許に、優しく差し伸べられた手が、きっと見えるはずだ。